

令和 8 年 7 月 2 1 日

那 賀 川 河 川 事 務 所

那賀川流域の豊かな自然をみんなに伝えるロゴマークと キャッチコピーを募集します！

～那賀川流域の豊かな自然を活かした地域活性化を目指して～

那賀川流域では多様な主体との連携のもと、生物の生息・生息環境を保全・再生するとともに自然環境を生かした地域活性化を目的とした「生態系ネットワーク」の形成に向けて、「那賀川流域地域ワーキング」を設置しています。

今回、ワーキングの取組全体のコンセプト（考え方、方向性）を多くの方に周知・共有することを目的としたロゴマークとキャッチコピーを募集します。

1. 募集期間

令和 8 年 7 月 2 1 日（火）～9 月 2 8 日（月）

2. 取組全体のコンセプト（考え方、方向性）

- ①那賀川流域の生き物や自然を守り育てます。
- ②自然を生かして流域の魅力や価値を高めます。

3. 応募資格

どなたでもご応募いただけます。

4. 応募作品の審査・選定・公表

那賀川流域地域ワーキングにて厳正な審査を行い、ロゴマーク 1 点、キャッチコピー 1 点を選定し、公表します。

5. 賞及び表彰

優秀賞：各 1 点（ロゴマーク 1 点、キャッチコピー 1 点）

副 賞：那賀川流域の自然の恵み詰め合わせセット（予定）

6. 応募方法

電子メール、郵送、直接持ち込み、のいずれかでご応募ください。

7. 詳細情報

詳しい募集要領、応募様式、参考資料については、添付資料をご覧ください。

本施策は、四国広域地方計画「2.2 サステナブル四国プロジェクト」の取組に該当します。

－問い合わせ先－

国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所

副所長（河川） みなみもと 南 本 ひでゆき 秀 行 内線（204）

事業対策官 ◎ ふじもと 藤 本 まさのぶ 雅 信 内線（208）

工務課長 よしもと 吉 本 やすたか 康 孝 内線（311）

電話（0884）22－6461（代）※◎：主たる問い合わせ先



例えばこんな事をしています！

ナベヅルが
すみやすい
環境づくり



農業や化学肥料を減らしたお米づくりや、お米を収
かくした後に出てくる穂を、ナベヅルが食べられる
ように、そのまま残しています。

アユがすむ
環境を守る



地域の小学校のみなさんと協力して、アユが卵を
産みやすい、小石が多く、きれいな川をつくるため
に一緒に作業をしています。

那賀川の自然を
多くの人に
広める



森や草はら池などの豊かな自然や、たくさんの生き
ものたちの、素晴らしさや大切さを、色々な人に伝
えるために観察会などを行っています。

那賀川流域の豊かな自然を
みんなに伝える

ロゴマーク
と
キャッチコピー
を作ってみよう！

ナベヅル



コウノトリ



ブッポウソウ



アユ



那賀川流域には、アユがのぼったり
ツルやコウノトリが舞いおりる
豊かな自然がたくさんあります。
その素晴らしさを、地域の人や
遠くにくらす人たちにも伝えたい！

そんな想いをこめたロゴマークと
キャッチコピーを募集しています。

那賀川流域にすむいろいろな

生きものをモチーフにして

ぜひ、表現してみてください！



しめきり

2026年

9月28日 必着

【主催】那賀川流域地域ワーキング

応募について

募集する作品

ロゴマーク

那賀川やその周りにすむ、いろいろな生きものなどの図

キャッチコピー

那賀川流域の自然の豊かさを伝える言葉

ロゴマーク、キャッチコピーの両方でも、どちらか一つでも応募できます。
応募対象はどなたでも、一人何点でもご応募ください。

応募のしかた

電子メール(Eメール)または、事務局まで郵送かお持ちください

電子メールの場合は、下記用紙の鮮明な画像を添付してお送りください
郵送・持参の場合は、応募用紙はできるだけ折り曲げずにお送りください

電子メール ▶ nakagawa2026@ecosys.or.jp

事務局 ▶ 国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所
〒774-0011 徳島県阿南市領家町室ノ内390
電話 0884-22-6542

受賞作品

那賀川流域の自然や生きもののPRにつながる

ロゴマーク、キャッチコピーが各1点選ばれます。

12月頃に、直接お知らせいたします。

副賞是那賀川流域の自然の恵みの詰め合わせセット(予定)
副賞の内容は変更となる場合があります。ご了承ください。



那賀川やその周りには、こんな生きものもすんでいます



シオマネキ



ヤマセミ



ミサゴ

写真提供：
徳島希少鳥類研究会

たくさんのご応募をお待ちしています！

応募用紙

応募者情報

ふりがな

応募者
氏名

学校名
または
所属名

学年
または
年代

～10代

20代

30代

40代

50代

60代～

生成AI

使用して作った

使用していない

応募の
種類

学校応募

個人応募

個人で応募の場合はご記入ください

〒

電話

メールアドレス

どんなイメージでつくりましたか？

ロゴマーク

キャッチコピー

ロゴマーク

図のみ、文字と図の組み合わせ、のどちらでもOK

キャッチコピー

20字以内

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

個人情報、この募集に関してのみ使用いたします

～那賀川流域地域ワーキングのロゴマークとキャッチコピーを募集します！～

募集要領

1. 募集の経緯と目的

河川を基軸として生きもののすみかとなる自然を守り育て、自然を活かした地域活性化を目指す「生態系ネットワーク」形成の取組を那賀川流域でも具体化するため、取組の推進母体となる「那賀川流域地域ワーキング」が令和7年5月に設立されました。

本地域ワーキングは、那賀川流域の企業や行政、学識者などの多様な主体で構成され、コウノトリやツル類、アユなどの多様な生きもののすみかとなる那賀川流域の自然を守り育て、自然を活かした暮らしや産業などを通じて、流域のさらなる魅力向上や活性化を目指していく予定です。

一方で、本地域ワーキングの取組範囲は広く、関係する分野や取組主体も多岐にわたることから、個々の取組を統一感を持って進めるとともに、取組全体のコンセプト（考え方や方向性）を多くの方々に周知・共有していくことを目的として、ロゴマークとキャッチコピーを選定するものです。

2. 募集概要

(1) 募集内容

- ①那賀川流域地域ワーキングの取組全体のコンセプトを示したロゴマーク
- ②那賀川流域地域ワーキングの取組全体のコンセプトを示したキャッチコピー

(2) 取組全体のコンセプト(考え方、方向性)

①那賀川流域の生きものや自然を守り育てます。

コウノトリやナベヅル、アユなどの那賀川にすむ多様な生きものたちが将来にわたってすみ続けることができるように、流域の自然を本来あるべき状態で守り育てます。

②自然を活かして流域の魅力や価値を高めます。

流域の自然を活かした治水や産業（農林水産業や工業、観光など）の振興、環境学習やレクリエーションの場の確保などに取組を通じて、流域の魅力や価値の向上を目指します。

※応募に際しては、別紙「那賀川流域地域ワーキングについて」もご一読ください。

(3) 募集期間

令和8年7月21日（火）～9月28日（月）必着

(4) 応募資格

どなたでもご応募いただけます。

※複数名の連名での応募や、団体（部活動、サークルなど）での応募も可能です。

連名、団体で応募する場合は、応募様式には代表者の方のお名前をご記入ください。

(5)応募に当たっての注意事項

- ・作品は模倣品のない未発表のものに限ります、未発表とは、印刷物、映像、WEBページ等で公表されておらず、各種コンクールで入賞していないものを指します。
- ・他に類似の例があり、商標登録や商標出願の公表がされていることが判明した場合は、審査結果発表後であっても受賞を取り消すことがあります。
- ・応募作品について第三者（他の応募者を含む）との間で権利侵害などのトラブルが発生した場合は、当該応募者が自らの責任において解決を図るものとし、事務局（国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所）及びこの募集に関わるすべての団体、個人は責任を負うことはできません。
- ・受賞作品の著作権その他一切の権利は、那賀川流域地域ワーキング事務局に帰属するものとし、採用されたロゴマーク、キャッチコピーの制作者是那賀川地域ワーキング事務局及び那賀川流域地域ワーキング事務局が指定する第三者に対して、著作者人格権を行使できないものとします。
 - ※「著作権その他一切の権利」とは、著作権法第 27 条及び 28 条に規定する権利及び商標・意匠の出願及び登録をする権利とします。
 - ※「著作者人格権」とは、「公表権」（公表するか否か、公表方法）、「氏名表示権」（入賞者の名前を公表するか否か、公表する場合、実名か変名かの決定）、「同一性保持権」（入賞者の意に反して勝手に改変されない権利）、「名誉声望保持権」（入賞者が意図しない形で利用されることによって名誉を失うことを防ぐ権利）を含む権利とします。
- ・受賞作品は、選定・表彰後に、必要に応じて修正や補正を行う場合や関連グッズの製作など二次的著作物を制作する場合があります。
- ・受賞作品は啓発物品や印刷物、WEBサイト等で使用します。
- ・受賞作品を用いた、関連グッズなど二次的著作物の収益については、著作者はその収益を請求することができません。（収益による配当はありません。）
- ・応募に必要な費用は、応募者自身の負担とします。
- ・応募作品の返却は行いません。

(6)作成方法

- ・作成方法は問いません（手書き、ソフトウェアでの作成など）。
- ・生成AIを使用して作成した場合には、応募用紙の生成AIの使用の有無を記入する欄の、「使用した」を○で囲んでください。
- ・ロゴマークは、A4サイズの白紙1枚に1作品とします。用紙の向きは縦とし、天地左右各2.5cm 余白をとった範囲内にデザインしてください。
- ・キャッチコピーは、概ね20文字程度に収まるようにしてください。
- ・ロゴマークのデザインは着色してください。色数は不問ですが、拡大・縮小した場合にも視認できるデザインにしてください。

(7)応募方法

- ・ロゴマークのみ、キャッチコピーのみ、ロゴマークとキャッチコピーの両方、のご応募が可能です。
- ・1人（1団体）何点でも応募可能です。
- ・作品は「（10）応募作品の送付先」に応募してください。
- ・応募作品に関わる個人情報は、応募作品の審査・発表、受賞者への通知以外の目的では使用することはありません。

(8)応募作品の審査・選定・公表

- ・応募作品は、那賀川流域地域ワーキングにて厳正な審査を行い、ロゴマーク1点、キャッチコピー1点を選定します。
- ・選定したロゴマーク、キャッチコピーは、応募者本人に書面で通知するとともに、那賀川流域地域ワーキング事務局のウェブサイトや報道機関を通じて、応募者氏名とともに公表予定です。
- ・なお、選定した作品を含むすべての応募作品を、那賀川流域地域ワーキング事務局のウェブサイト等で公開予定です。
- ・受賞されなかった方への通知は行いません。また、選定結果に対するお問合せにはお答えしかねますので、予めご了承ください。

(9)賞及び表彰

応募作品から以下の賞を選定し、表彰します。

- ・優秀賞 各1点（ロゴマーク1点、キャッチコピー1点）
優秀賞には、副賞として「那賀川流域の自然の恵みの詰め合わせセット」（予定）を贈呈します。

(10)応募方法

※電子メール(Eメール)、郵送、直接持ち込み、のいずれかの方法でご応募ください。

①電子メール(Eメール)で応募する場合

【送信先】 那賀川流域地域ワーキング事務局 ロゴマーク・キャッチコピー係

Eメール：nakagawa2026@ecosys.or.jp

【留意点】

- ・メール1通あたりの添付ファイルのデータ容量を10MB以下に収まるようにして、電子データ（JPEGまたはPDF）を添付して送信してください。
- ・添付する電子データの解像度は、なるべく300dpi以上にしてください。
- ・電子データのファイル名には、「応募者の氏名」をフルネームで記入してください。
- ・別紙「応募様式」に必要事項を記入し、電子データとともに送信してください。なお応募様式は、ロゴマークまたはキャッチコピー1点につき1枚を提出してください。
- ・Eメールの件名は「那賀川流域地域ワーキングのロゴマーク・キャッチコピーの応募」と記入してください。

②郵送で応募する場合

【郵送先】〒171-0021

東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

公益財団法人日本生態系協会 那賀川ロゴマーク・キャッチコピー係

※本選考に係る事務局業務を受託した業者の連絡先です。

③直接持ち込む場合

【持ち込み先】那賀川流域地域ワーキング 事務局

国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所（工務課）

〒774-0011 徳島県阿南市領家町室ノ内390

※平日の午前9時～午後5時

【留意点】

- ・郵送または直接持ち込む場合には、なるべく電子データ（J P E GまたはP D F）をC DまたはD V Dにコピーして、郵送または持参してください。
- ・郵送時には、別紙「応募様式」に必要事項を記入したものを打ち出して同封してください。なお、応募様式は、ロゴマークまたはキャッチコピー1点につき1枚を提出してください。
- ・郵送する場合（紙に手書きをしたもの、電子データを打ち出した紙、案内チラシの応募用紙）は、折れ曲がったり、破損しないように梱包してください。

（11）本件に関する問合せ先

※本選考に係る事務局業務を受託した業者の連絡先です。

公益財団法人日本生態系協会 那賀川ロゴマーク・キャッチコピー係

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル

電話：03-5951-0244

Eメールアドレス：nakagawa2026@ecosys.or.jp

応募様式

【応募締切】令和8年9月28日（月）必着

ふりがな	
お名前	※連名、団体で応募する場合は、代表者の方のお名前をご記入ください。
住所	〒
電話番号	
メールアドレス	
ご所属 (勤務先/学校など)	
年代	※該当するものを○で囲んでください。 ～10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代以上
応募内容	※該当するものを○で囲んでください。 ロゴマーク ・ キャッチコピー
生成AIの 使用の有無	※該当するものを○で囲んでください。 使用した ・ 使用していない
ロゴマーク についての説明	※どのような思い・考えをこめて作成したのかを簡潔にご記入ください。 ※ロゴマークは電子データでメール送信するか、用紙にプリントアウト（または手書き）したものを郵送でお送りください。
キャッチコピー についての説明	※どのような思い・考えをこめて作成したのかを簡潔にご記入ください。
キャッチコピー	※キャッチコピーを20文字以内を目安に、この欄にご記入ください。

※「ロゴマーク、キャッチコピーの説明」の文字数制限はありません。（記入欄に書ききれない場合は別の紙に記入しても構いません。

※応募様式を郵送で送る場合は、A4サイズで打ち出して下さい。（白黒で構いません）

※本様式の提出をもって、募集要領に記載された事項全てに同意したものとみなします。

別紙

～那賀川流域における生態系ネットワークの形成に向けて～
那賀川流域地域ワーキングについて

○生態系ネットワークとは？

- ・野生の生きもののすみかとなる森林、農地、河川、海岸など地域の自然環境をつなげて、まとまりのある良好な環境として保全・再生する取り組みです。
- ・那賀川とその周辺の地域では、阿南市の「生物多様性あなん戦略」による豊かな自然環境の保全と生活や産業での活用の推進、小松島市の「オーガニックビレッジ宣言」による稲作を中心とした有機農法の推進など、自然環境を保全・再生する取り組みが進められています。
- ・また、那賀町でも生きものにも優しい森林整備に向けた「那賀町森林整備計画」策定のほか、各地で生きもののすみかとなる環境づくりや自然をテーマにした環境学習が進められており、生態系ネットワークの実現には、地域の皆さまや企業、農家、行政、学識者などによる様々な取り組みを結びつけていくことが必要です。
- ・このような一つ一つの取り組みが、地域の自然をより豊かにし、地域の魅力を高めたり、地域の活性化などにつながることを期待されます。

○那賀川における生態系ネットワークの取り組み

- ・那賀川とその周辺地域における生態系ネットワークの取り組みを推進するため、令和7年5月に「那賀川流域地域ワーキング」が設立されました。
- ・「那賀川流域地域ワーキング」では市民団体や企業、農業団体、市町、学識者など、様々な関係者の参加のもと、ツル類やコウノトリ、アユをはじめとする様々な生きものを守り育てる取り組みを進めています。

○生態系ネットワークで目指す那賀川とその周辺地域のすがた

- ・アユがのぼり、コウノトリやナベヅルがくらす豊かな水辺が広がり、自然の恵みを活かした暮らしや産業が営まれる「自然と共生する地域」の実現を目指します。

生態系ネットワークが形成された地域のイメージ



那賀川流域の生きもの

○那賀川の上流域から中流域には森林が広がり、下流域には水田や市街地が広がります。
それぞれの環境に応じて、様々な生きものが生息しています。

上流域（川口ダムより上流）

鳥類：ヤマセミ、ブッポウソウ 等

魚類：アユ、アマゴ 等

※ダム湖と支流の河川で一生を終える陸封型のアユが生息しています。



ヤマセミ



ブッポウソウ



アユ



アマゴ

中流域（川口ダム～十八女橋）

鳥類：サギ類 等

魚類アユ、スナヤツメ、ウグイ 等



サギ類



スナヤツメ



ウグイ

下流域（十八女橋～潮止め堰）

鳥類：ナベヅル、コウノトリ 等

魚類：アユ、サツキマス、カジカ 等

※那賀川の砂州の一部をナベヅルがねぐらとして利用しています。

※瀬がアユの産卵場になっています。



ナベヅル



コウノトリ



カジカ（小卵型）



アユ

汽水域（潮止め堰～河口）

鳥類：ミサゴ、シギ・チドリ類

魚類：マハゼ、スズキ 等

※河口の干潟は、シオマネキを始め、多様な生きもののすみかになっています。



シオマネキ



シギ・チドリ類



マハゼ



ミサゴ

桑野川

鳥類：サギ類 等

魚類：オヤニラミ、ヤリタナゴ 等



オヤニラミ



ヤリタナゴ



生態系ネットワークに関する流域の主な取り組み

那賀川・桑野川の流域とその周辺地域（小松島市を含む）では、生態系ネットワークに関わる様々な取り組みが行われています。

取り組みの対象となる地域

※黄色く色づけをした地域



数値情報(河川ラインデータ)(国土交通省)等をもとに作成

那賀町

那賀川の支流の丈ヶ谷川、海川谷川で市民参加によるアユの産卵場づくりや、流域の森林をフィールドとした環境学習が行われています。



アユの産卵場づくり（徳島大学、県企業局、地域住民との連携で実施）



森林や川での環境学習
（まんなかの学校）

小松島市

農林水産省の「オーガニックビレッジ」宣言を行い、生きものや自然に優しい農業が行われています。



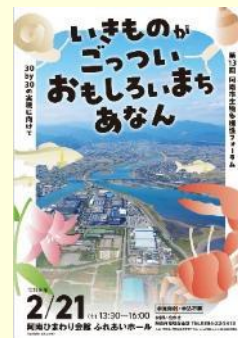
市民参加による動植物の
生息・生育環境づくり



ナベヅルの生息環境づくり
（落穂の確保、水田への冬期湛水等）

阿南市

市域全体を対象として生物多様性を高める取り組みが行われています。



「生物多様性あなん戦略」
に基づく拠点環境（生物多
様性ホットスポット）の保
全・再生



学校と連携した環境学習
（那賀川下流域でのアユの
産卵場づくり）

那賀川流域での取り組み（考え方/柱となる取り組み）

取り組みの考え方

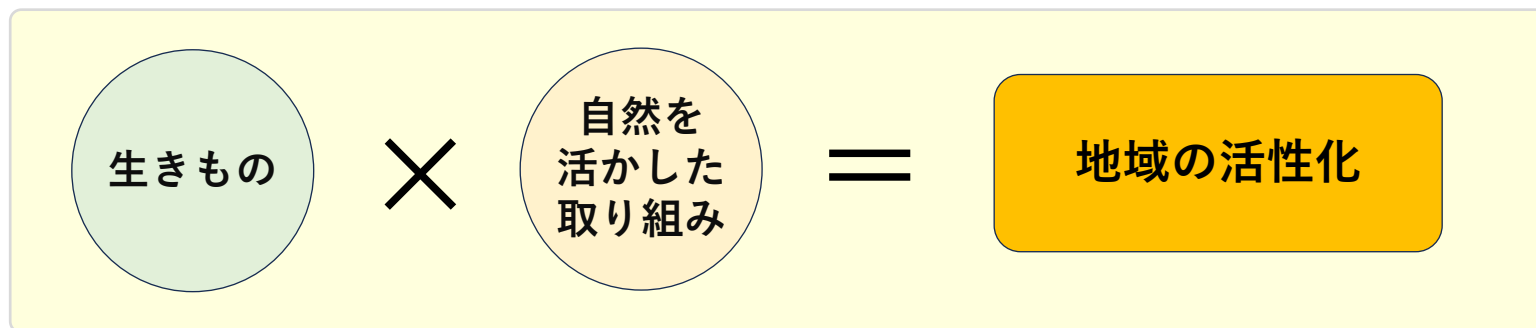
以下の考え方に沿って取り組みを進めます。

- 生きもののすみかとなる自然環境をまとまりのある形で保全・再生します。**
「河川（那賀川）」を中心として、森林や池沼、農地、海など様々な生きもののすみかとなる自然環境をつなげて、まとまりのある良好な状態で保全・再生します。
- 自然を活かして流域の魅力や価値を高めます。**
自然を活かした暮らしや産業、環境学習など幅広い分野での取り組みを通じて、那賀川流域の魅力や価値の向上を目指します。

柱となる取り組み

以下の考え方に沿った取り組みを進めます。

- 生息環境づくり**
取り組みの対象となる地域の自然環境の健全さを象徴する生きものに着目し、その生きものが住みやすい自然環境を保全・再生します。
- 地域・人づくり**
「自然を活かした取り組み」を通じて那賀川流域の魅力や価値を引き出し、地域の活性化を目指します。



取り組みの例（生息環境づくり）

○那賀川を中心とした生態系ネットワークの形成に向けて、関係するこれまでの取り組みをはじめ、流域に生息する生きものが住みやすい環境づくりを進めていく予定です。

ナベヅルの生息環境づくり



ねぐら環境づくり
(冬期湛水、デコイ設置)
[取組主体] 太田川土地改良区 等



採食環境づくり
(二番穂や落穂の確保)
[取組主体] 太田川土地改良区



ねぐら環境づくり
(人や車両の立入による影響緩和のための啓発看板の設置)
[取組主体] 那賀川河川事務所

アユの生息環境づくり



産卵場づくり（下流域）
[取組主体] 流域の小学校、
那賀川河川事務所



産卵場づくり（上流域）
[取組主体] 徳島大学 等

コウノトリの生息環境づくり

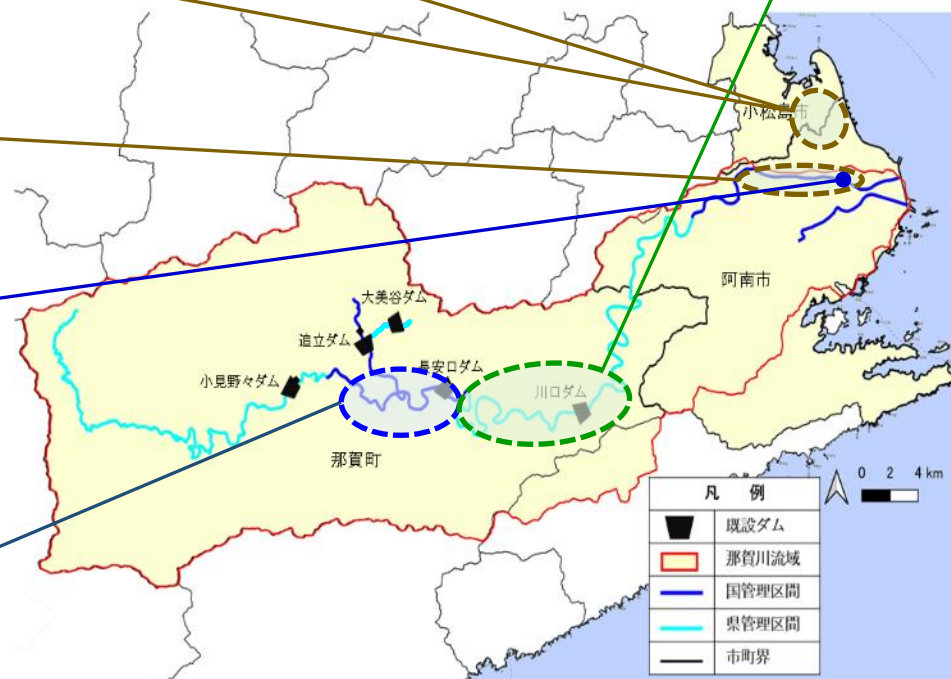


人工巣塔、ビオトープの整備
[取組主体] JA東とくしま

生きものを育む森づくり



森と川をテーマにした環境学習イベントの企画・開催
[取組主体] まんなかの学校



数値情報(河川ラインデータ)「国土交通省」等をもとに作成

取り組みの例（地域・人づくり）

○那賀川流域に生息する生きものや、良好な自然を活かした取り組みを通じて、地域の魅力や価値を引き出し、地域の活性化につながる取り組みを行っていく予定です。

アユのブランド化

- 那賀川産の「美味しいアユ」の知名度向上
- 那賀川産アユの販路の確保



普及啓発・情報発信

○流域の自然や生きものに関する普及啓発や、関係する取り組みの情報発信



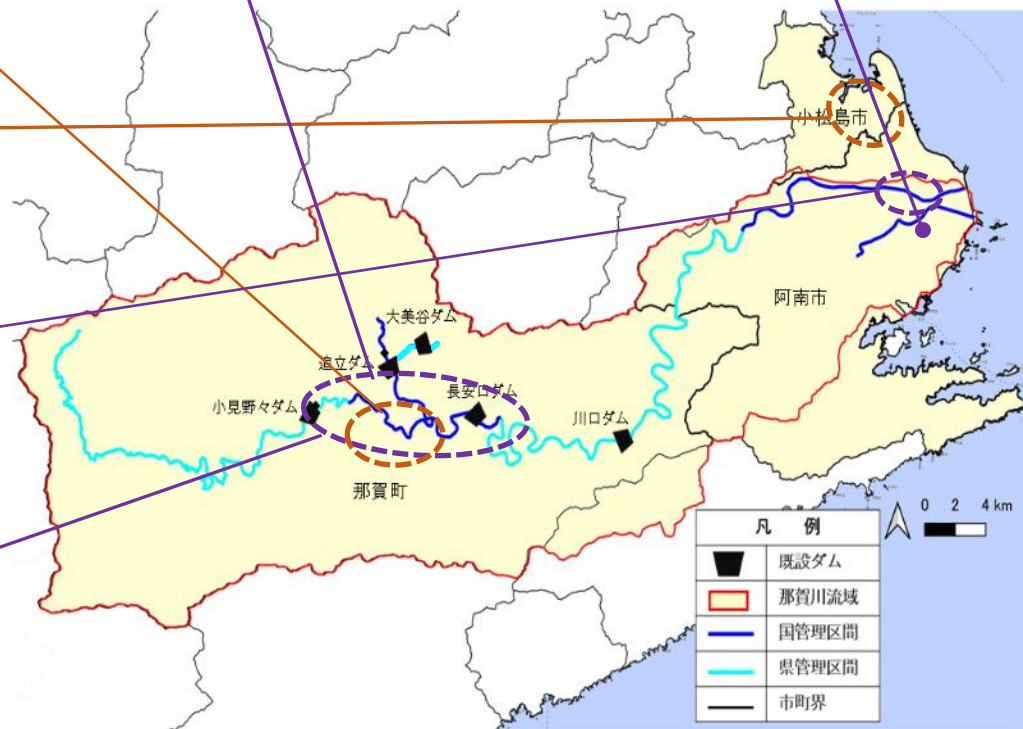
農産物のブランド化

- 生きものに優しい農法で生産した米の付加価値の向上
- 有機農産物の利用促進（学校給食への導入など）



環境学習の推進

- 生きものや自然をテーマにした環境学習の実施



那賀川流域地域ワーキング

○各地で行われている取り組みを結び付け、那賀川流域の自然環境を保全・再生するとともに、良好な自然環境を活かした地域活性化の実現を目的として「那賀川流域地域ワーキング」を設立し、検討を進めています。

那賀川流域地域ワーキング検討会（設立：令和7年5月22日）

◇開催回数：2回

◇構成：学識者／自治体／行政機関／団体等

◇主な役割：取組の方向性の検討、取組情報の共有、取組の進捗の確認

鳥類コアワーキング（設立：令和7年5月26日）

◇開催頻度：年1～2回程度

◇構成：学識者／自治体／行政機関／団体等

◇主な役割：コウノトリ・ツル類をはじめとする鳥類の生息環境の保全・再生、自然を活用した地域活性化の具体的方策の検討・実施

魚類コアワーキング（設立：令和7年6月4日）

◇開催頻度：年1～2回程度

◇構成：学識者／自治体／行政機関／団体等

◇主な役割：天然アユなどの魚類をはじめとする水生生物の生息環境の保全・再生、自然を活用した地域活性化の具体的方策の検討・実施



那賀川流域地域ワーキング検討会



鳥類コアワーキング



魚類コアワーキング

那賀川地域ワーキング検討会委員及びコアワーキング構成メンバー

R7.11.6時点

区分	所属・役職	会議区分		
		検討会委員	コアワーキングメンバー	
			鳥類	魚類
学識者	阿南工業高等専門学校 名誉教授	●		
	阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 教授	●	●	●
	新潟大学 佐渡自然共生科学センター 教授	●		●
	認定NPO法人 とくしまコウノトリ基金 事務局長	●	●	
行政	市町村	阿南市	市長	●
			市民部 環境保全課 課長	●
		小松島市	市長	●
			産業振興部 農林水産課 課長	●
	那賀町	町長	●	
			農業振興課 課長	●
	徳島県	県土整備部 河川整備課	流域治水担当 係長	●
			徳島県 南部総合県民局・農林水産部(阿南)	農村整備第一担当 課長
国土交通省	那賀川河川事務所	事務所長	●	
	那賀川河川事務所	副所長		●
団体等	農業	東とくしま農業協同組合	代表理事組合長	●
		参与		●
		生活協同組合コープ自然派にこ	専務理事	●
		太田川土地改良区	理事長	●
	漁業	那賀川土地改良区	常務理事	●
		とくしま釣りの輪	代表	●
	企業	日亜化学工業株式会社	環境安全本部 環境安全部 部長	●
		ソルベィ・スペシャルケム・ジャパン株式会社	研究開発部 部長	●
			工場管理部 部長代理	●
	金融機関	株式会社 阿波銀行	常務取締役	●
		株式会社 徳島大正銀行	法人推進部 副参事	●
		阿南信用金庫	総務部	●
活動団体	環境	日本野鳥の会徳島県支部	出島野鳥園サポート隊 隊長	●
	活動団体	まんなかの学校	代表	●
事務局	国土交通省 那賀川河川事務所 工務課			

参考資料

ロゴマーク、キャッチコピーの作成事例



生物多様性とくしま会議

【作成主体】 特定非営利活動法人生物多様性とくしま会議
（事務局：徳島保全生物学研究会）

【コンセプト等】

・徳島県のレッドデータブックに掲載されている絶滅危惧生物をモチーフにし、とくしま会議のまち・里部会、川・海・汽水域部会、奥山・里山部会の取組を表現

【関連ウェブサイト】

<https://www.facebook.com/biodiversity.tokushima/>



札幌市 生物多様性シンボルマーク

キャッチコピーも作成済

【作成主体】 札幌市

【コンセプト等】

・円を地球に見立て、植物、チョウ、ウミガメ、魚、鳥、熊、ウサギ、カエル、人間といった様々な生き物を1本の線で描くことで、地球上の多種多様な生き物の存在とそのつながりを表現

【関連ウェブサイト】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/mark_catchcopy.html



2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）

【作成主体】 2030生物多様性枠組実現日本会議（事務局：環境省）

【コンセプト等】

- ・官民連携により、自然と社会が調和した社会の実現、生物多様性の主流化を目指す想いを表現
- ・日本の代表的な動物として、生物多様性をイメージのシンボルとして入れている（トキ、ツクノワグマ、ウミガメ、アホウドリ、メダカ、アオスジアゲハ、サケ）。右上の判型は企業、学校、工場、住宅を組み合わせで多様なセクターを表現。左下は海と山、森を組み合わせで豊富な自然を表現。中心の網模様は日本の代表的な三つ組手に倣い、自然とセクターと生物多様性の繋がりを表現

【関連ウェブサイト】

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/j-gbf/about/logo/>



みなかみユネスコエコパーク

【作成主体】 みなかみユネスコエコパーク協議会事務局（事務局：群馬県みなかみ町）

【コンセプト等】

- ・みなかみユネスコエコパークの理念に基づき、みなかみの自然や歴史、文化などを、「まもり、いかし、ひろめる」
- ・みなかみ町の頭文字「M」を形どっている。

【関連ウェブサイト】

<https://www.town.minakami.gunma.jp/minakamibr/info/2017/2017-0724-1029-30.html>



タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

国土交通省

【作成主体】 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会
（事務局：国土交通省 北海道開発局 札幌建設開発部、長沼町）

【コンセプト等】

- ・「タンチョウも住めるまちづくり」の取組の普及啓発、取組へ親しみを持ってもらう。
- ・Naganuma（長沼）の「N」をシンボル化した青いラインは、舞鶴遊水地を表現。赤い丸と青いラインはタンチョウを迎え入れる人を表現。羽ばたくタンチョウと、それを迎え入れる人、営巣を目指す舞鶴遊水地を示すことで、豊かな自然に恵まれた長沼町が「タンチョウも住めるまちづくり」に取り組んでいることを表現

【関連ウェブサイト】 <https://compe.japandesign.ne.jp/maoi-net-tantyau-logo-2018/>



関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会

国土交通省

【作成主体】 関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会
（事務局：国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課）

【コンセプト等】

- ・コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりの価値や魅力をさらに高め、取組の認知度を向上させる。

【関連ウェブサイト】 <https://compe.japandesign.ne.jp/ktr-kanto-econet-logo-2018/>

ロゴマークの作成事例（他地域の生態系ネットワーク協議会）



荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

国土交通省

【作成主体】 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
（事務局：国土交通省 関東地方整備局 荒川上流河川事務所）

【コンセプト等】

- ・ 荒川流域の自然と治水が調和した魅力的な地域づくり
- ・ 荒川流域の空に コウノトリを 羽ばたかせよう！

【選定方法】 公募（複数のデザイン案から投票で決定）

【関連ウェブサイト】

<https://sites.google.com/view/anaaportal/%E5%BA%83%E5%A0%B1/data>



斐伊川水系 生態系ネットワークによる 大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会

国土交通省

協議会の愛称も公募

【協議会の愛称】

斐伊川水系 水鳥プロジェクト

【作成主体】 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり
検討協議会（事務局：国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所）

【コンセプト等】

- ・ 協議会の取組の普及啓発、協議会の取組に対する愛着の醸成

【関連ウェブサイト】

<https://sites.google.com/view/hiikawa-econet/%E6%84%9B%E7%A7%B0%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9C%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%AF>

キャッチコピーの作成事例

吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 (現：徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会)

【コンセプト等】

- ・協議会の目的を端的に表現できるキャッチコピー
- ・目的1：コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成
- ・目的2：コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

【関連ウェブサイト】

<https://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/report/info30/h310212-1/h310212-1.pdf>

【キャッチコピー】

ツル・コウノトリと未来育む阿波の国

札幌市 生物多様性キャッチコピー

【コンセプト等】

- ・地球上のすべての生き物のつながりと、そのつながりによって広がる生命の強い結びつきを表現

【関連ウェブサイト】

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/mark_catchcopy.html

【キャッチコピー】

つながる ひろがる 命の輪

2030生物多様性枠組実現日本会議

【コンセプト等】

- ・産学官民の多様なステークホルダーが連携・協力し、「ポスト2020生物多様性枠組」や関連する国内戦略等の達成に向け取り組む。

【関連ウェブサイト】

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/j-gbf/about/logo/>

【キャッチコピー】

生物多様性のためにできること。
みんなで行動していこう。